

大学1年生	1年生	2年生	3年生	4年生
大学2年生	2年生	3年生	4年生	卒業後1年
大学3・4年生 / 社会人	1年目	2年目	3年目	4年目

2023年 7月 10月 2024年 1月 4月 2025年 1月 5月 7月 9月 2026年 1月 7月



赤木講師推奨受講プラン

入門講座こそ合格のカギ! しっかり受けてください

合格への近道は『基礎』をしっかりおさえることです。私のクラスでは、入門講座で徹底的に基礎学習を行います。重複する合格答案作成講座については、通信受講で入門講座との併行学習をおすすめします。論文に関しての質問は、入門講座の中でもしっかり対応していきます。

OUT put
全国短答
ファイナル模試
2回 ※

IN put 通信
合格答案作成 講座
63回(189時間)
2023年予備試験合格目標の講座をご受講いただけます。

講義編
答案作成編
刑法 → 刑事訴訟法 → 憲法 → 行政法 → 民法 → 商法 → 民事訴訟法

司法試験過去問編

Input & Output 連動学習 論文

OUT put
全国短答ファイナル模試 2回

予備試験 短答本試験

予備試験 論文本試験

予備試験 口述本試験

司法試験 本試験

予備試験合格者の司法試験合格率は高い!
予備試験合格者(29歳以下)の2022年司法試験合格率

98.65%

赤木講師からメッセージ

「**条文至上主義**」とは?
「**当事者目線**」とは?
法律の勉強で大切なこと



法律を学ぶ、ってどういうことか?一言で言うなら「条文」をきちんと学習することです。その理由は、**予備試験・司法試験とその後の実務が、「条文」第一であるから**です。これまでの試験でも、「条文」の知識をもとに「条文」から考えることが求められますし、私自身、実際の事件では、「条文」をフル活用して紛争解決等の仕事をしています。1年目から、「条文」を学習し、「条文」から考える、「**条文至上主義**」を身につければ、**予備試験・難関法科大学院などの合格はぐっと近づきます**。また、法律は「人間」と「人間」の紛争を扱う道具であり、必ず当事者がいます。この「**当事者**」の立場で法律を使いこなすことも、**試験でも実務でも求められます**(「**当事者目線**」と呼んでいます)。この「**条文至上主義**」と「**当事者目線**」を身につけて頂けるよう、私のクラスでは、常に具体的な事例を踏まえて、実践的な講義をしていきます。一緒に頑張りましょう!

※本コースには、2024年5月下旬から実施される「全国短答ファイナル模試(全2回)」が付属しております。入門講座修了段階のタイミングで実力診断としてご受講いただけます。

IN put 通信
先取講座
民法 → 商法 → 民事訴訟法

先取講座で申込後すぐに学習開始!

IN put 生講義+Zoom+通信
入門講座
107回(321時間)

刑法 → 刑事訴訟法 → 憲法 → 行政法 → 民法 → 商法 → 民事訴訟法

先取受講した科目も、生講義で受講可能!

Input & Output 連動学習 入門/基礎固め

OUT put 通信
論文基礎力養成答練
35回(27問)

入門段階から論文を書いていくことで、知識の確認+論文力を養成

入門講座とリンク!
知識をより確実に定着
[赤木講師の課外ゼミ]

Zoom 入門講座赤木クラス 申込者限定

入門講座では、不定期で30分程度の「課外ゼミ」を実施。定義・趣旨・要件などの基本事項の復習はもちろん、難関ロースクール入試や予備試験の論文過去問を使った実践的な問題も扱います。**入門講座とあわせて受講することで知識がより定着**します!
◎実施日程、回数につきましては、梅田駅前本校にお問い合わせ下さい。
◎事前課題がございます。課題については、入門講座内でご案内いたします。

OUT put 通学 or 通信
ハイレベル論文答練
30回(60問) 本試験6回分の問題演習

IN put 通信
短答合格講座
42回(147時間)

Input & Output 連動学習 短答

OUT put 通信
ハイレベル短答答練
24回 本試験6回分の問題演習

IN put 通信
法律実務基礎講座 / 講義編
7回(21時間)

Input & Output 連動学習 論文

OUT put 通信
法律実務基礎講座 / 演習編
7回(21時間) ※過去問解説の他、民事、刑事各3問ずつ添削あります。

IN put 通信
選択科目総整理講座
※選択科目によって講義時間・回数が異なります。

赤木クラスのポイント 1

入門講座・合格答案作成講座は赤木講師が一貫指導

◆赤木クラスでは入門講座・合格答案作成講座は赤木講師が全科目を担当いたします。赤木講師の一貫指導によって、科目間のバランスのとれた無駄のない学習が可能になります。

赤木クラスのポイント 2

論文の解き方を踏まえ、メリハリをつけたインプット

◆赤木クラスでは、原則、論文の書き方を1年目から徹底的に実践していきます。アウトプットと連動して理解することで、インプット内容も、どういう場面で、どう使うかを習得でき学習の効率化を図ります。

赤木クラスのポイント 3

重要な1年目に知識が定着しやすいよう、全体2回し

◆1年目でしっかりと知識の定着を図ることで、2年目以降に時間を取って問題検討にいそむことができます。さらに、1年目の知識の定着度合いは他の受験生との差につながります。そこで、復習回数を増やして知識が定着しやすいよう、1年目の入門講座の各科目では2回転させます。

赤木クラスのポイント 4

条文に情報集約(条文至上主義)

◆論文試験では条文を参照できます。この条文に情報を集約して、条文から必要情報を抽出できるようにしておくことは、試験現場で大きなアドバンテージになります。法律学習の基礎は条文であり、条文を操ることが合格へのカギとなります。